ど高いことによるものであると考えられる。

また、このことは時間・経験によってカバー出来ることであり、実務的基礎力を保有していることに加えて、若年で早くから実務を経験できることにより、より早く一人前の立派な介護福祉士になれるものである。

吸収力の高い先入観を持たない若い介護福祉士であり、施設の方針をより早く理解し、施設の期待に応えられる立派な戦力となると考えられるものである。

回答項目の中で出された意見の中から二、三拾ってみると、年令差によるものとして、

○年令が少ないことによる社会経験不足、子どもっぽい、学生気分が抜けない。

その中で、社会経験不足によるものとして、

・日常の生活体験の不足（普通の家事一般・掃除・洗濯等）
・社会的知識経験に差がある
・コミュニケーションのとり方が違う
・人生経験の差が常識的なこと、介護的な経験

に出てくるなどである。

若年、社会経験未経験等から来るものが大部分であり、施設等雇用者の率直な意見によるものと考える。

将来ある有為な人材を育て、社会で活躍するようにすることは国全体で取組むべきことであり、高齢者が増加して行く中にあって若い人間を育てて行くことは、社会全体、そして一面では預かった施設の責務でもあると考えるものである。

年令、社会経験等が少ないなどから来る高卒資格者のレベルが低いのではないのかとの声があるが、アンケートの結果からはそのようなことは考えられないものである。

高卒資格者の方が、

・国家試験に合格していることでレベルが高い。
・モチベーションが高く、仕事をやり遂げる熱意・吸収性の高い人材が多い。
・中学から福祉を目指していることから、心から福祉が好きな人物であることから、良い点が見られる。

などの意見が寄せられ、高卒資格者を高い評価をする声がある。

高校における福祉教育の質が高く、また学ぶ生徒の意欲の高さが評価されているものであり、昭和６１年から培ってきた高校福祉教育が実効を上げてきていることを表しているものと確信を深めたものである。